

翻 訳

# Ludwig Wittgenstein : Letters to John Maynard Keynes 1913-1939

飛 田 就 一

1. この翻訳は、Ludwig Wittgenstein : Letters to Russell, Keynes and Moore ; Edited with an Introduction by G. H. von Wright, assisted by B. F. McGuinness, © Basil Blackwell 1974 を底本とし、その105ページから141ページまでの部分の全訳である。なお、Ludwig Wittgenstein Briefe : Briefwechsel mit B. Russell, G. E. Moore, J. E. Keynes, F. P. Ramsey, W. Eccles, P. Engelmann und L. von Ficker ; Herausgegeben von B. F. McGuinness und G. H. von Wright ; © Suhrkamp Verlag Frankfurt am Main 1980 に収録されている当該部分のドイツ語文を参考にした。
2. Wittgenstein と Keynes, この哲学者と経済学者との組み合わせは、いささか奇異の感を与えるかもしれないが、それぞれが、専門領域においてだけでなく、今世紀の学問上、思想上に革命的なイムパクトを与えている、という点での共通性をもっている。
3. この翻訳が、私的な手紙という性格上、直接、一般的には学問研究上に積極的な意義をもつとは考えにくい、この哲学者と経済学者との交わりの事実の一端をうかがうことはできるし、すくなくとも Wittgenstein 研究にとっては、無意味ではない。
4. 人名・地名・書名などの固有名は、片仮名表記にしないで、原表記のままにしておいた。
5. 原文でのイタリック体は日本語文では傍点をつけた。

K. 1

IV. Alleegasse 16

3. 1. 13.

Keynes 様

ご親切なお手紙、ありがとうございました。あなたのお手紙を受け取るまえに私は、あらゆる種類の困った問題が本国にありますので、学期が始まるまでには、あるいは始まってからでないとイギリスに帰れないだろう、ということをお手紙しようと考えていました。——あなたがちょうど McTaggart からやっこられて、そのとき私のことをお考えになっておられたとき、あなたが哲学を誹謗しておられたのを、私は弁護いたします。あなたのおぐあいがいいことをお聞きしまして、たいへん嬉しく思います。

草々

Ludwig Wittgenstein

K. 3

Midland Hotel

Manchester

22. 6. 13.

Keynes 様

あなたはたぶん覚えていらっしゃると思いますが、私が King's College の研究基金——あなたがそれをなんとお呼びになろうとも——に対して、Johnson にそれを与えるために、なにがしかのお金を提供したい、といつでしたかお話したことがありました。私はそのとき、その基金の金額をいちどかぎり与えるのか、それとも毎年200ポンドを与えるのかどうか、については決めていませんでした。後者の方法は、私にとりましては断然、最も都合のよい結果になるということがわかりました。ところで私にはそのお金を、いつ、どなたに送ったらいいのかなどがわかりません。この問題についてご存知なのはあなただけですし、私の知人のほかのどなたにもお話しするつもりはございませんので、あなたの助言を求めざるをえません。10月までに、もちろん私はそのときまでは Cambridge に滞在しているでしょうが、あなたの助言をいただける余裕の時間がないかぎり、この件につきまして私になにか書いていただけるご親切があれば、とても感謝を申しあげるしだいです。8月中旬までの私の住所は、次のとおりです。L. W. jun. IV. Alleegasse 16, Austria, Wien。

敬具

Ludwig Wittgenstein

*Johnson—Wittgenstein* は W. E. Johnson に、彼が教育へのかかわり合いをすくなくし、研究のための時間をふやせるように、年間、200ポンドの援助金を与えた。Cf. R. F. Harrod, *The Life of John Maynard Keynes*, London 1951, p. 162.

K. 4

Hochreit

Post Hohenberg

Nieder-Österreich

16. 7. 13.

Keynes 様

私の用件でご迷惑をおかけしていることにお礼を申し上げます。——このまへの学期ではかなり頻繁にはあなたにお目にかからなかった私の理由は、私たちの親交をあなたがつづけるのを望んでおられるというなんらかの表れがないかぎり、私がそれを望んでいなかったからでした。

草々

Ludwig Wittgenstein

K. 7

K. u. K. Art. Autodetachment

Feldpost No. 186

[Jan 4, 1915]

Keynes 様

9月にあなたが私にあてて書かれたお手紙を、受け取りました。お金は、戦争が終わりしだい、

通帳に振替で送金するつもりです。私は、Johnsonにながく会っていなければいけないほど、ますます彼を正当に評価しているのですが、私の彼への好意をどうぞ彼にお伝えください。

あなたがこの手紙を受け取られたら、スイスの赤十字経由で、上記の住所あて、どうぞ私にお手紙をください。

草々

L. Wittgenstein

Jan 4, 1915—Keynesによって書き加えられた日付。たぶん、この手紙を受け取った日付。cf. K. 8

K. 8

K. u. K. Art. Autodetachment

“Oblt, Gürth”

Feldpost No. 186

[1915]

Keynes様

あなたが1月10日に書かれたお手紙、きょう受け取りました。Russellが最近一冊の本を出版したということだそうで、私はたいへん興味をそそられています。できますなら、その本を私のところに送っていただけませんか。戦争が終わりましたら、その代金を支払わさせていただきます。私は、その本がとても読みたく思っているのですけれども。ついですが、兵士であることが命題について深く考察するのをじゃまする、とあなたがお考えになるのであれば、あなたはまったく誤解しておられます。実を申しますと、私は、最近、多くの論理学の研究をしましたし、近いうちに、もっと多くの研究をしたい、と望んでいます。——どうぞJohnsonに、私からよろしく、とお伝えください。戦争は、私の個人的な感情をまったく変えることはありませんでした(ありがたいことに!!)。ほんとうはむしろ、私は、多少は気もちがやさしくなりました。私がきのうのイースターにMooreにあずけていたノートから、Russellが何かを理解することができたかどうか、疑っています。

草々

L. Wittgenstein

Keynesによって記入された日付。

*Russell has published a book.*—おそらく、BostonでのRussellのLowell Lecturesである*Our Knowledge of the External World*であろう。

K. 9

Cassino

12. 6. 19.

Keynes様

同封しました手紙を、どうぞRussellの住所あてに転送していただけませんか。なんとかして彼に会うことができないだろうか、と私は望んでいます。なぜかと申しますと、彼は、私の本について、文字では書き表せない、非常に綿密な説明がなければ、私の本を理解することができないだろう、と私は確信しているからです。あなたは、確率についてさらになんらかの研究をされましたか。私の原稿は、それについてなん行か含んでいますし、それが本質的な問題を

解決している、——と私は信じております。

敬具

Ludwig Wittgenstein

*enclosed letter*——これは、R. 36の手紙である。

K. 10

[1923]

Keynes 様

“Reconstruction in Europe”をお送りいただきまして、ありがとうございます。あなたがどのような境遇におられるのか、などが私あてに書かれてあるあなたの短信を受け取ったことはもちろんうれしいことです。もしかするとあなたは、忙しすぎて手紙を書けないのでしょうか。そうだと、私は思いません。あなたは、Johnsonに会われますか。もし会われるのなら、どうぞ、私からよろしく、とお伝えください。私は、彼からも（私の本のことについてではなく、彼自身のことについて）とても知りたい、と思っています。

それで、あなたがそのことについてなんとかしてくださるお気持ちがあれば、そのうちに私にお手紙を書いてください。

敬具

Ludwig Wittgenstein

*Reconstruction in Europe*——1922年5月18日に、*Manchester Guardian Commercial*で出版された。しかし Keynes の返信（K. 11に補遺として印刷されている）は、この手紙が1923年に送られてきたことを示しているように思われる。

K. 11

Puchberg am Schneeberg

4. 7. 24.

Keynes 様

あなたの本をなん冊か送っていただき、また3月29日付のあなたのお手紙をいただき、とても感謝しています。私は、たいへんながいあいだあなたにお手紙を書くのをひきのばしていました。と申しますのも、私は、あなたに英語で書いたらいいのかドイツ語で書いたらいいのか、決めかねていたからです。ドイツ語で書くことは、私にとりましては仕事をやりやすくしてくれますが、あなたにとってはむづかしくします。別の面から申しますと、私が英語で書きますと、私の全体の仕事は、私のねらいという点ではそれだけでもうまったくだめになってしまうかもしれない、と思うのです。ドイツ語の手紙をあなたに翻訳される人をあなたが見つけれられる、としてもです。私が言わなければならないすべてのことを言うとするれば、私はけっきょく英語で書くことにします。

つまり次のようになります。まず私は、あなたにもういちど、なん冊もの本とあなたのお手紙にお礼を申しあげたいと思います。私はとても忙しくて、すべての学問的なことに対して私の頭脳はまったく受け容れる力がありませんので、私はそれらの本のうちの一冊（*The economic consequences of the peace*）を読んだだけです。もちろん私は、論議の対象についてはほとんど何も理

解できないにもかかわらず、たいへん私の関心をひきました。私はその学問的な研究を理解することができるために、あなたが何かなされることができるかどうか、お手紙に書いてください。つまり、この件については何もできないなら、できない、と。と申しますのは、私は、自分でこのような問題と取り組むにはもう内的な強い欲求をもちあわせてはいないからです。私は、実際に言わなければならないことはすべて言ってきましたし、それにとまって泉は干上がってしまいました。それは、奇妙に聞こえるでしょうが、ほんとうです。——私は、あなたにお会いしたい、とてもお会いしたいのです。イギリスに滞在するお金を私に保証してくださることはあなたにはたやすいことだ、ということを知っています。だが私が、あなたの善意をいま実際に利用するように言われている、と考えれば、いろんなためらいも私の心に浮かんでまいります。私はイギリスで何をしなくてはいけないのでしょうか。私はただあなたにお会いするためにだけ行けばいいのでしょうか。できるやり方すべてで気晴らしをすればいいのでしょうか。私が言おうとしているのは、私はまったく楽しみに行くのでしょうか。いま私は、楽しみに過ごすのでは価値がない、とはすこしも考えてはいません。——ただ私だけが実際に楽しめるのなら——あるいは楽しい時を過ごす価値がないのなら——、実際とても楽しい時であるとしても——。

しかし部屋でじっとしていたり、一日おきかそれくらいにあなたとお茶をのんだりすることは、十分に楽しいものではないでしょう。しかしそのばあいは、私は、このわずかな心地よさのために、私の短い休暇が最も少ない利益もなく——私はお金のことを言っているわけではありません——、あるいはその休暇から、なんの満足もえないで、幻のように消えてしまうのを体験する、大きな損失となってしまうことになるでしょう。もちろん、Cambridge であなたとごいっしょにいるのは、Wien にひとりで滞在するよりずっと楽しいことです。しかし Wien では私は、すこしは私の考えをまとめることができますし、それがまとめるに値しないとしても、たんなる気晴らしよりはいいでしょう。

ところで私は、一日おきにいただく一杯のお茶より以上のものをあなたからいただくことができる、すなわち私は、実際にあなたからお聴きしたり、あなたにお話ししたりすることから利益をうけることができるだろう、ということが不可能だとは思いません。それでこのばあいは、海を越えてイギリスに行くことに価値があるでしょう。しかし、ここで再び、いくつかの大きな障害があります。つまり、私たちはこの11年間、会っていません。私は、その間あなたが変わられたかどうか、を知りませんが、私は確かに、ものすごく変わりました。私は、以前よりもよくなってはいませんが、変わってはいるということを残念に思っています。だから、私たちが会うことになれば、あなたに会いにきた人が、あなたが招待しようと思っていた人物とは実際にはちがう、ということに気づかれるかもしれません。たとえ私たちがおたがいに理解しあえることができるとしても、すこしぐらいの歓談ではそのためには十分でないでしょう。それで、私たちの出会いの結果は失望であり、あなたの側では嫌悪であり、私の側では嫌悪と絶望であるでしょう、ということとはしかです。——私は、イギリス人で何かきまった仕事があって、それが街路掃除やだれかのブーツを磨くことであっても、私は大喜びでイギリスへ渡るでしょうし、そのときは、楽しみは自然に生まれてくるでしょう。

主題についてはもっとたくさんの方が言われなければならないでしょうが、英語かドイツ語で表現するには、あまりにもむづかしいことです。そんなぐあいでは、終わりにしたほうがいい

いでしょう。私は、この手紙を書きはじめたとき、全部ドイツ語で書くべきだ、と考えていましたが、たいへん妙なことに、正しいドイツ語でよりも不完全な英語で書くのが私にとっていっそう自然であることがわかりました。

敬具

Ludwig Wittgenstein

追伸 Johnson にお会いになられましたら、どうぞよろしくお伝えください。

この手紙は、Wittgenstein への Keynes の次の手紙に対する返信である。

46, Gordon Square

Bloomsbury

29 March 1924

### Wittgenstein 様

あなたのお手紙にたいして、まる一年が過ぎましたのに、お返事をさしあげておりません。こういうことであったことを恥ずかしく思っております。しかしそれは、あなたのことを十分に考えていなかったとか、友情の表れを取りもどそうと十分に感じていなかったとかいうものではありませんでした。その理由は、あなたにお手紙を書くまえに、あなたの本を徹底的に理解しようと望んだ、ということでした。けれども私の心はいま、根本的な問題からは遠くはなれていますので、そのような問題の内容について明らかにすることは私にとっては不可能です。あなたの本が途方もなく重要で天才の著作である、ということを私はたしかに感じていますが、そのことを除いては、私は、あなたの本についてなんと言うべきか、いままでのところまだわかりません。よかれあしかれ、その本が書かれてからは、この本は Cambridge でのあらゆる根本問題の論議を支配しています。

私は、戦時中からいままでずっと書きつづけてきましたそれぞれ異なった本のコピーを別便の小包で、あなたにお送りしました。確率論は、戦前にとりくんでいたものの完成されたものです。——私は、あなたがそれを気にいらないのではないだろうか、と心配しています。平和条約についての二冊の本は、半ば経済にかかわっており、半ば政治にかかわっており、通貨改革（いまのところ私がもっとも強く考えていることです）についての本です。

私はひどく、あなたと再会し、語りたいのです。あなたがイギリスを訪問される機会はありませんか。

敬具

親愛の情をこめて

J. M. Keynes

Pinsent への覚え書きについて同封した文書を、あなたはごらんになりたいかもしれません。

私は、あなたがさらに研究をつづけられるのをよいにすることも、できることなら、私にできますことをしたい、と思っています。

Wittgenstein が Cambridge を再び訪れるべきだ、という提案にたいする彼の反応は、Keynes にあてた Ramsey からの次の手紙にも明らかにされている。

Wien 1  
Mahlerstrasse 7  
Tür 27  
Austria  
24/3/24

### Maynard 様

Wittgenstein の Puchberg の住所は正確です。私はきのう彼を訪ねました。彼は、あなたの送られた本をととてもよろこんでいましたし、あなたによるしくとのことです。

また彼は、英語で正確には表現できないことを、ドイツ語で書くこととあなたが彼を理解しないのではないだろうか、ということに不安に思っていたからでしょうが、彼のイギリスに行く可能性についてあなたに手紙を書くように、私に求めました。私は、彼にはまったく英語で表現できるでしょうけれども、彼にとってはそれはたいへんな努力がいるのかもしれない、と思いますし、それで私が彼に代わって手紙を書いてみましょう、と彼に言ったのです。彼は、このことについて Richard とも話しましたが、Richard が彼を忠実に伝えるとは当てにしていません。

彼はきっぱりと、Cambridge には行きたくないし、滞在したくない、と決めています。7月と8月は、一年間に彼がとるほとんど唯一の休暇で、彼はふつう Wien で、深く物事を考え込みながら、ただひとりで生活して過ごしています。彼は、Cambridge に行くなんらかの特別な理由がないかぎり、Cambridge より Wien を選んでいます。唯一の理由というのは、人びとと会うことになっている、ということでしょう。彼がイギリスに行って会いたいと思っている人びとは、ほとんどおりません。彼は、Russell とはもはや話すことはできませんし、Moore とはある誤解をいっていましたし、お話しできる人は、けっきょくあなたと Hardy しかじっさいにはおりません。おそらく彼がいま会いたいと思っているのは Johnson ですが、しかし彼らは明らかに気が合わないでしょう。私自身は、10月までにはイギリスにもどらないでしょう。

Cambridge に行くということ、ちょっとお茶を飲みに出かけたり、人びとと会ったりするということは、彼の考えでは、ただ時間の浪費にすぎないだけでなく、明らかにいやなことなのです。そのような交わりは、なんの選択の対象になるような善を提供しませんし、彼の瞑想から彼をそらすだけでしょうし、双方になんの成果もなく、彼が人びとと十分に会わなければならないということもなければ、彼は人びとと、彼がとても好んでいるあなたでさえも、接触を保つことはできない、と感じています。

けっきょく次のようなことになります。彼は、あなたといっしょにいなかに滞在して、再びあなたと親交を結びたい、と思っているのですけれども、楽しい時間をすごしにイギリスなんかには行きたくないのです。彼は、そんなことはむだなことだ、と感じるでしょうし、楽しいことだとは思わないでしょうから。

このことについては、私は、彼が正しい、と思いますが、とても残念だとも痛感しています。彼は、その環境からのがれ、疲れさせられていなければ、そして彼を励まして研究をさせなければならなかったのですが、もっと非常に立派な仕事をするかもしれないのですから。彼は、その目的でなら、おそらくイギリスに行くでしょう。しかし、彼がここで教師として教えているかぎり、彼はなにもするつもりにはならないだろう、とは考えません。彼の思考活動は、あたかも

徐々になくなるかのように、あきらかにおそろしく困難な仕事です。彼の夏休みのあいだ私がここにおりますなら、私は、励まして彼にやらせるようにしてみたい、と思います。

それで私は思うのですが、ことし彼はイギリスには行かないでしょうし、あなたが彼に、いっしょに滞在してほしいのですが、とたのまないかぎり、私は彼に勤めることはできません。あなたがたのまれる場合には、彼はやって行くでしょう（彼がそうしたいと思っていたことは、おのずから起こります。私はそれを提案していませんでした。）。

彼の考え方を明らかにした、と思っています。それはまったく、私が心に描いていたものとは反対のものであります。彼が、困難だと気づき、退屈だと気づくかもしれないような人といっしょに滞在するのを心配していた、と手紙に書いていたとき、私はすぐに、それでもやはりひとりで暮らしていても、ときどき人に会ったりしたいのだ、と思いました。しかし彼は、自分が出会う人びとを理解しないだろう、と思いこんでいますので、また人びとも、彼がいつも会っているような場合を除いては、彼をすぐには、あるいは全然理解しないだろう、と思いこんでいますので、どうしたらそうしたときどき人に会ったりするケースになるのだろうか、ということなど望んでいません。別の面から言えば、あなたといっしょに滞在するように彼に勤めるなら、彼は、完全な失敗もありうるにもかかわらず、それをやってみようと思つて、と思っています。

あなたがそれはむつかしくて骨が折れると思われるのではないかと私はおそれます。

私は、彼がとても好きなのですが、私たちの会話のたのみの綱をもたらず彼の仕事に私が大きな関心をよせていなかったなら、一回や二回以上に彼を楽しませることが私にできるかどうかは疑わしいです。

しかし私は、こうした型にはまった単調な生活からできるだけ彼を引きだすかもしれないので、彼があなたを訪ねるようにさせることができますなら、たいへんうれしく存じます。

敬具

Frank Ramsey

この手紙は、Sir Geolfren Keynes と Ms. Lettice Ramsey のご親切なお許しをえてここに再現した。原文は、それぞれ Wien の Dr. Herman Hänsel と the Library of King's Colledge, Cambridge にある。

K. 12

8. 7. 25.

**Keynes 様**

数週間以前に私は、Manchester にいる私の友人から、私の休暇中、しばらくのあいだ彼のところに滞在するように私を招待する旨の手紙を受け取りました。いまもまだ私は行くか行かないかについてはまったく決めておりませんが、私が滞在中にあなたにもお会いできるなら、私はむしろ行きたいと思っております（8月中旬ごろ）。あなたが私に会おうというお気持ちですこしでもおもちなら、どうか率直に知らせてください。あなたが私に断りの返事をなさっても、私は少しも気かけません。どうか、できるだけはやくお返事をください。私の休暇はずいぶん短くて、私は私の旅を用意するにはほとんど時間を十分にもっていないものですから。

敬具

Ludwig Wittgenstein



私のあて名は、次のとおりです。L. W. bei Dr. Hänsel, Wien V., Kriehubergasse 25.

*friend of mine in Manchester*—Mr. W. Eccles.

K. 13

[July or August 1925]

Keynes 様

お手紙ありがとうございました。私は、16日、午後10時40分（Boulogne-Folkestone 経由で）London に到着する予定です。私は、いまひとりでイギリスをあちこち旅行してまわる、という考えはもっておりませんので、どうか London に私を迎えに来てください。あなたがこの旅行に必要なお金を私に送ろうと思っておられるなら、私はとてもうれしく思います。私たちがおたがいによいようにうまくやっけていこうとしているのか、私はとても知りたいと思っています。それは、まさに夢のようでしょう。

敬具

Ludwig Wittgenstein

K. 14

7. 8. 25.

Keynes 様

お手紙とお金10ポンド、たいへんありがとうございました。あなたが提案しておられるように、私は、Dieppe-Newhaven 経由で旅行し、Newhaven には、Dieppe を夜なかに出る船で、18日火曜日の朝、到着することになるでしょう。

再会を楽しみに！

敬具

L. Wittgenstein

Wittgenstein は、8月のイギリス滞在期間を、Manchester と Cambridge で、そして Sussex では Keynes といっしょに過ごした。Cambridge では彼は、Ramsey や Johnson と会い、そしておそらくは他の友人たちとも会っただろう。——Wittgenstein はしばしば、W. E. Johnson への彼の大きな愛情について私に語った。これについては、ここに公表された手紙によっても証明される。戦前の彼らの対話中に Wittgenstein が急にやり始めた彼の論理学についてのそれをくつがえすような非難を、Johnson は根気よく耐えなければならなかったようだ。Johnson が1925年8月24日の日付で Keynes にあてたノートで次のように書いたことが、彼らのあいだの関係についての雰囲気を反映している、と私は考えている。「Wittgenstein は、もういちど彼に会うのをとても楽しみにしている、と告げている。しかし私は、私の根源をさぐりだすことと同等のことをなしとげることは、もはや私にはできないのだから、私たちは論理学の基礎については語るつもりはない、と私は保証しなければならない。」

K. 15

18. 10. 25.

Keynes 様

お手紙ありがとうございました。私は、いまでも教師をしており、現在は、お金は必要ではありません。私がこのようにその状態になっている困難がなんらかのよい効果をもたらすかもしれ

ない、と私が感じているかぎりは、私は教師としてとどまろう、と決心しています。だれかに歯の痛みがあれば、お湯のはいつている瓶をその人の顔においてやるのはいいことですが、その瓶の熱さがその人にいくらかの痛みを与えるかぎりのばあいだけ、ききめがあるでしょう。私の性格により効果をもたらす特殊な痛みをひきおこさないことを私が確認するとすぐに、私はその瓶を投げすてるでしょう。つまり、人びとがここでそのときより以前に私を投げ出さないならです。私が教えることをやめる場合には、私はたぶんイギリスに行って、仕事をさがすでしょう。私は、この国では全然、なにも見つけだすことのできる可能性はないことを確信しているのですから。この場合、私はあなたの援助を望むことになるでしょう。

どうぞ奥様によろしく。

敬具

Ludwig

Johnson にお会いになることがあれば、彼によろしく伝えてください。

この手紙は、学校の教師としての Wittgenstein の生活が困難であることを反映している。彼の周囲の人びとと、そして学校の権威と耐えがたい重大局面のあとで、彼は、1926年4月にその職を辞任し、その後は学校で教えるということには二度ともどらなかつた。

K. 17

Wien III.

Parkgasse 18

[Sommer 1927]

Keynes 様

私があなたに手紙をさしあげてから、ながいあいだたってしまいました。一年半ほど以前に送っていただいたロシアについての小さな本に、くりかえしてお礼を申します。ながいあいだ守ってきた私の沈黙を、私は説明しようとは思っておりません。それには、たくさん理由があります。私には多くの心配事がありまして、ひとつの困難がほかの困難に広がりましたし、それらの困難がすべて過ぎ去ってしまうまで私は、手紙を延期していました。しかしいまは、私の困難は短期間の休暇で中断しましたし、これがあなたにお手紙を書く好機となっています。私はもうずっと前から（約14か月）教えることを断念して、建築に取り組んでいます。私はいま、Wien で一軒の家を建てています。このことが私に、どっさり困難を与えており、その仕事を台なしにしないかどうかは、私にはまだはっきりしておりません。でも私は信じているのですが、この仕事はおよそ11月には完成するでしょうし、私は、その後にイギリス旅行を計画できるでしょう。それは、そこでのだれかが私に会いたいという気持ちをもっておられる場合のことです。私はとてもあなたと再会したいと願っておりますし、そうこうするうちにあなたからのお手紙をいただけるものと願っております。あなたの本が私の気になっていることを言うのを、私は忘れていました。天と地とのあいだには多くの事物が存在している、ということなどをあなたがご存知である。このことをあなたの本は、示しております。

どうぞ奥様によろしくお伝えください。

敬具

Ludwig

私は温かい瓶がもうがまんできませんでした。

*book about Russia*——これは、1925年12月に Hogarth Press で出版された。

*house in Vienna*——これは、彼が姉である Mrs. M. Stonborough のために建てた家である。この家の記述としては、Ungo Giacomini, “Un'opera architettonica di Wittgenstein”, Aut. Aut. rivista di filosofia e di culture, nr. 87, maggio 1965 をみよ。

K. 18

Wien III

Kundmangasse 19

[1928]

Keynes 様

これまでの2年間、私の時間を完全に奪っていました私の家が、たったいまできあがったところですよ。そこでこんどは、私は休暇をとって、もちろんできるだけはやくあなたにお会いしたいと思っています。私とお会いすることがあなたになにか差し障りがありますかどうか、それが問題です。差し障りがございませでしたら、その旨、お手紙をください。私は12月上旬のあいだにイギリスに行くことができるかと思いますが、私の体のある部分の詳細な検査をまだ処理しなければなりませんので、それ以前は行けません。私の家の写真を二、三枚同封してありますので、ごらんください。その家の単純さがあなたにとって嫌でなければいいのですが。

敬具

Ludwig

すぐお返事ください！

*Wien III Kundmangasse 19*——Wittgenstein が Wien で建築した家の住所。

*parts of my anatomy*——この表現がどんな類いの身体上の疾患に言及しているのか、私にはわからない。

K. 20

Wien III

Kundmangasse 19

[December 1928]

Keynes 様

私の健康状態はこの月の上旬には十分に回復していませんので、私は、旅行を延期しなければなりません。しかしいまは、もうほとんどよくなっていますし、1月の初めにはイギリスに行きたいと思っています。私があなにお会いできるかどうか、どうぞお手紙を書いて、知らせてください。

敬具

Ludwig

1928年12月3日に Wittgenstein は、Keynes にあてて次のような電報を打った。「まだ旅行不能。あと手紙。Ludwig。」

My dear Kijnes,  
 I've just finished my house  
 that has kept me entirely  
 busy these last two years.  
 Now however I will have some  
 holidays & naturally want to  
 see you again as soon as possible.  
 The question is, would you mind  
 seeing me. If not, write a line.

I could come to England in  
 the first days of December but  
 not before, as I have <sup>just</sup> set to  
 right part of my anatomy.  
 Enclosed you will find a few  
 photos of my house & hope you  
 won't be too much disgusted  
 by its simplicity

Yours ever

Rudolf  
 Wien III Kundmannngasse 19

write soon!

K. 21

[May 1929]

## Keynes 様

この手紙をあなたに書くのは、私にはとてもつらく思われています。どうぞ、あなたがこの手紙を批判されるまえに、理解しようと努めてください（外国語で手紙を書くことは、やはりいっそうむつかしくします）。あなたにはきっと気にいらぬのは確かであるながたらしい説明を与えたり、しはじめたりしないで、あなたが私に望まれておられるように、私はあなたのところに行くことはできないだろう、と思います。私が最後にあなたにお会いしたとき、私は、最後の学期にすでに私にはわかっていた見方で確認されていたことですが、あなたが私との会話で疲れておられる、ということなどを、非常にはっきり私にみせておられました。こうなつたいまは、私に何か差し障りがある、とはどうぞお思いにならないでください。どうしてあなたが私に嫌になってはいけぬのでしょうか。私はあなたにとって退屈しないと思われたり、魅力的だと思われることかもしれない、と一瞬間であっても思ったことはありません。おそらく私に何か影響を及ぼしたのは、あなたの言葉から憎悪と憤懣のかくされた言外の響きを聞いて感じとる、ということでした。憎悪とか憤懣とかいう言葉は、たぶん正確には適切な言葉ではありませんが、何かこの種のものでした。たまたま正しいことが判明したような考えが私の念頭に浮かんでくることのできるまでに、しばらくのあいだ私は、そうなつた原因がどこにあるのか、解くことができませんでした。とつぜん私の心に浮かんできたのは、あなたが多分、私が必要なばあいには、あなたの経済的な援助を手に入れることができるために、いろいろあるなかでもあなたの友情を私が育成しておくのだらう、ということをおあなたがどうも思っておられるらしい、ということでした（それは、いつかそのようなこともあるかもしれない、とあなたが想像しておられることです）。この考えは、私には非常に不愉快でした。けれども私は、言っていることが正しかったということが、以下に述べるように明らかになりました。この学期の初めに私は、あなたが私に借しておられた幾らかのお金をあなたにお返しするために、あなたのところに行きました。そして私は、そのお金をお返すまえに、ごちない言い方で言いました。「まあ、なにはともあれお金を。」この言い方で私が心に思っていたことは、「まず私は借金の問題を清算したいのです。」ということ、あるいはそういうことでした。しかしあなたはとうぜん、私を誤解されて、だから私が全体の出来事を読み取ることができたような顔をされました。それについて起こつたことは、私は the society についての私たちの会話だと思っているのですが、あなたがどれほど多くの否定的な感情を私に対して見詰めておられたか、を示していました。このことは、私があなたとお茶をのむのをけつて妨げないかもしれません。私が適切な理由を洞察しえないあなたの秘められた憎悪が消えうせてしまつている、ということをお想定しうることをとてもうれしいことかもしれません。しかし私には、あなたの手紙でのもう一つの発言は、あなたが私を友人としてではなく、慈善家としてみようとして望んでいることを示しているように思われるのです。しかし私は、けっきょくは友人から恩恵をうけています（それだから私は、三年前にも Sussex であなたの援助を受けたのです）。

あなたがいつか、私の懐具合について語らないで、私といっしょにお茶をのみたいと望まれるなら、私はよろこんで行くでしょう。——あなたが短くて親切な返答を書くことができないようでしたら、どうぞこの手紙に返事を書かないでください。私はこの手紙をあなたの説明を受け取

るために書いているのではありませんし、私がどのように考えているか、をあなたにおつたえするために書いているのです。それであなたが友人らしく三行で返事を書くことができないようでしたら、なにもご返事をいただかないのが最も好ましいことです。

敬具

Ludwig

この手紙に対して Keynes は親切で思いやりのある返事を1929年5月26日の日付で書いた。それは、Wittgenstein の死後、彼の論文のあいだにはさまって発見された。ここでは、Sir Gerffrey の親切な許可をえて転載された。

King's College

Cambridge

May 26 1929

Ludwig 様

あなたはなんて狂人なんだろうか！ もちろん、あなたがお金のことについて言っていることには本当のことはみじんもありません。小切手がこの種の何かを現金に換えること以外には、あなたが私から何かを望んでいたということは、この学期の初めに決して私の心を横切ることはありませんでした。お金を贈与するのが適切だと私が当然考えるべき事情のもと以外では、あなたが私からなにがしかのお金を望むこともあるだろう、と想像するのは決して可能ではありませんでした。さいきん私が私のメモであなたの懐具合に言及したとき、私があなたから高額の思いがけない料金による困難な事情を聞いていないということを聞いていたからでしたし、また私がもしこのことがそのとおりであったなら、あなたがここに最初にやって来られたとき私があなたに推察していた、すなわちおそらく Trinity の援助を手にいれることができるだろう、という可能性を探り出すつもりだ、ということがありました。私は、私自身が何かをすることが私にとっていいことでありうるかどうかをよく考えて、全体についてもっとよく決定していませんでした。

いや——私たちが最後に会ったとき、むしろ不きげんに私に話をさせたのは、「悪意の隠された言外の響き」ではありませんでした。人格的にあなたに言及するようなあなたとの会話が行われるとき、本当の印象をあなたに伝え、間違った印象を阻止することは、それが困難があるからには、まったく疲労や短気であったし、ほとんど不可能だと言うべきものでありました。それからあなたは立ち去って、それに対して気をつけることが私の念頭には決して浮かんでこなかったほど遠く、その当時は私の意識のなかに起こってきたすべてのものから離れているような説明を捏造します。真理というものは、あなたとあなたの談話への愛情と喜び、それにそのことでひきおこされる私の神経の完全な破滅とのあいだで、私があれこれ思い迷っている、ということです。これは、なにも新しいことではないのです！ いつも、そんなふうでありました。——この20年をとおして。しかし《秘められた憎悪》と《友情のない言動》——あなただけが私の心のなかをのぞきこむことができるとすれば、あなたはまったく異なったものを見つけることにもなるでしょう。

さて、あなたが十分に私を許すことができますなら、あなたは私のところに来られるでしょうし、こんばん、私といっしょに大学で食事をしましょう（私は、来週中はほとんどここにはいないで

しょう)。——そうすればあなたは、お金のことについて、まったくあなたに都合がよいように、話すことも話さないこともできますでしょう。

敬具

JMK

*the society*——これは、「The Society」とか「The Apostles」として知られている討論クラブへの言及であるかもしれない。M.4に対する下の注を参照せよ。

*three years ago*——これはおそらく、1925年の Wittgenstein のイギリス訪問に言及しているので、“four”と書くべきであったし、“three”と書くべきではなかった。

K. 22

[December 1930]

Keynes 様

お祝いの言葉、どうもありがとうございました。そうです、この特別研究員の仕事はひじょうに満足しています。私の頭脳がしばらくの間はまだ創造力が豊かであるように願いましょう。そうなるかどうかは、神のみぞ知る！——とにかく、今学年度の終わる以前に、またいつかあなたにお会いしたいと望んでいます。

敬具

Ludwig

*fellowship*——1930年12月に Trinity College での特別研究員への Wittgenstein の任用に関連する。

K. 25

Sunday 30. 6. [35.]

Keynes 様

私の問題でまたあなたをわずらわさなくてはならないのを、申しわけなく思います。あなたにおたずねしたい二つの事があります。

(a) 先日、私たちがあなたの部屋で話しあったとき、あなたは Maiski 大使に私をある種の紹介する気がしなくなったのではないかと私は思いました。そのとき私は、彼は私が望んでいた助言を私に与えてくれるような男ではないだろう、と私は考えていた、と言いました。しかしそれくらい、もし彼がロシアの政府の役人たちに推薦状を私に持たせてやるようにしたいという気があるなら、推薦状は十分に私の役にたつだろう、と言われました。それで私の第一のお願いですが、あなたが私を Maiski に紹介しようというお気持ちがあるかどうか、したがって彼が私に推薦状を渡してくれるということが可能となりうるような会話を彼とすることが私に可能である、という内容です。

(b) 私はいま、9月には旅行者としてロシアに行こう、そしてそこで適当な仕事を得ることが私に可能であるかどうか確かめてみよう、と多かれ少なかれ決心しています。私ができるように仕事を見つけることができない、あるいはロシアで働く許可を得ることができない、ということを確認すれば(私が懸念しているように、まったくありうることです)、私はイギリスに帰って、可能なら、医学を研究したいと思います。ところで、あなたが私に、私の医学の専門教育を受けてい

るあいだ私に資金を提供しよう、と語ったとき、あなたは私がロシアに行きたい、そして、ロシアで医学に従事する許可を得るよう、やってみよう、と私が考えているのをあなたにご存知ありませんでした。あなたが私のロシア行には賛成されない、ということは私にはわかっています（私は、私があるあなたを理解している、と思っています）。それで私は、こうした事情のもとで、あなたがやはり私を援助しようとするかどうかを、あなたにお尋ねしなくてはなりません。私は、このような質問をあなたにしたくはありません。私は、この問題について、“No”の危険を冒すからではなく、いくらか質問をもっていたからです。あなたが答えられる場合には、どうぞかんとんに葉書に、ありうるケースとして

(a) No か (a) Yes など

(b) No など

と書いてください。あなたが(a)と(b)のどちらにも否定的に答えられても、私は、あなたにはまったく思いやりがない、とは考えないでしょう。

私は先日、みじめな感じをいできてあなたの部屋をあとにしました。私がやっていることを私にやらせることを、またそれが私にとってどれほど困難であるかも、あなたはまったく理解されないだろう、というのも残念ながら当然です。

敬具

Ludwig

*trouble you with my affairs again*—これはおそらく、1935年の春に Wittgenstein が、当時書いていた本を出版する計画を Keynes と論議していた事実に関係する。Keynes は、1935年3月6日付の Moore にあてた手紙で、これを述べている。Keynes は、出版計画が金銭上の困難にぶつかっているなら印刷費用を提供しよう、という彼の意欲を表した。Wittgenstein は、British Academy の援助で著作を出版することを望んでいたようである。

*Maiski*—Ivan Mikhailovitch Maiski (1884-1975), Great Britain の USSR 大使 (1932-1943) .

Saturday 6. 7. 35.

Keynes 様

お手紙、ありがとうございました。(a)に対するあなたの回答に感謝することは、正しいことではないでしょう。というのは、どんな感謝の言葉も、実際には適切ではないでしょうから。——(b)に関しては、Vinogradoff が Moscow に出発しているのだから、私は彼に会うことはできません。彼は、私の彼との対話のあとで、土曜日に出発するつもりだ、と私に語っていました。この対話で彼はまったく助けにはなりません。すなわち、彼がほんとうにここにいたとしても、助けにはなりません。他方では、あなたが Maiski の前で私のことを Vinogradoff に尋ねられたとき、彼はこれを示さなかったのは確かです。Vinogradoff は、私たちの対話に極度に慎重でしたし、彼がそうしなければならなかったのは、確かです。もちろん彼は、推薦状が私を援助するかもしれない、ということをはかの人と同じように知っていたが、彼は私が何かを手に入れるのを援助するつもりがなかった、すくなくとも実際に影響力をもつかもしれない、ということもまったく明かでした。——ところで、私が Maiski に望んでいたことは、次のようなことでした。私は、彼に会うことを望んでいましたし、彼と会話をかわすことを望んでいました。私かあるいは私の事情が彼によい印象を与えるかもしれない非常に小さなチャンスがある、



ということを私は知っています。しかし私は、これがたまたま起こるチャンスもまずない、と考えています。さらに、彼が私に紹介することもできるかもしれない Leningrad や Moscow でなんらかの政府役人を彼が知っているわずかなチャンスがあります。私は、二つの研究所で役人たちと話をしたかったのです。一つは、Leningrad の “the Institute of the North” であり、もう一つは、Moscow の “the Institute of national Minorities” です。これらの研究所は、私が述べたように、U. S. S. R. の周辺に新しく植民地化された部分である「植民地」に移住しようとしている人びとを扱います。私は、これらの研究所の人びとから情報を、できれば援助を得ようと望んでいます。そのような推薦と紹介が二種類のものがありうる、と私は想像しています。それは一つは純粋に公認のものでしょう。その場合では、「私に会ったり、私の質問に耳を傾けたりするこれこれのことが、たいへん親切であるかどうか」が必要なだけでしょう。つまり Maiski が大使としての彼の特性でそうでないと何もしえない、ということが私にははっきりしています。あるいは他の一つは、彼がよく知っているだれかにあてた非公式の推薦状であるでしょう。これは、私が彼に好印象を与えている場合にだけ私に与えるだろうし、それは、——私は知っている——というのが非常に疑わしい。私の推測が正当化されているなら——そうであるかどうかは、神のみぞ知る——、Maiski にあてたあなたの推薦状をいただくことは、私にとりましては役に立つものとなるでしょう。この推薦状でああなたが彼に対して私に推薦状を与えるようお願いする、ということを私は望んでいるわけではありません。私が望んでいるのは、情報や助言を得るために、彼との会話ができるように彼が私に許してくれることだけです。彼が対談に応じてくるなら、私は彼に、ロシアでだれかに推薦してもらえるかどうか、を自分で尋ねるでしょう。あなたの紹介状ではあなたは、私がああなたの個人的な友人であること、そして私が政治的に決して危険な人物ではないことをあなたが保証する、ということを書いていただかなければならないと思います(すなわち、これがあなたの意見であるという場合には)。——そのような紹介と引きつづき行われる討論が私にとりましていいものではありません。——という気持ちをあなたがお持ちになるなら、あるいはあなたが何か別の理由で、それがどういうものであれ、私にそのような紹介状を与えるさいに、よくない感じを持たれるなら、あなたが私に紹介状をくださらないことに、私は完全に満足するでしょう。

ロシアに行くという配慮に対する私の理由をああなたは部分的には理解しておられるのは確かだと思いますし、部分的にはまずいことだし、しかも子どもじみた理由だ、と私も認めますが、しかしそのすべての背後に深くてよい理由でさえもあるのだ、というのも事実です。

敬具

Ludwig

これに対して Keynes は、次のように(7月10日付)返事をした。

**Ludwig 様**

Maiski あての私の紹介状を同封します。あなたがこれを彼への添え書きといっしょに届けることを、そして彼がああなたと歓談することを時間的に手はずを決めることができるかどうか、を尋ねることを提案します。

Vinogradoff が言っていたことから私は、あなたがソビエト連邦の組織から招待を受けるにち

がない、という点では困難があるでしょう、と推定しました。あなたがなんらかの方法で技術的に有能であれば、彼らがあなたに関心をいだくことはむつかしくはないでしょう。しかし、そのような才能がなければ、医学的な能力がまったく問題でありうるかもしれないけれども、それはむつかしいでしょう。

敬具

JMK

### Maiski にあてた Keynes の紹介状

#### Maiski 殿

Trinity Colledge, Cambridge の特別研究員, Ludwig Wittgenstein 博士を紹介させていただきます。彼は、多かれ少なかれ永続的なロシア滞在の許可を獲得する熱望をもっております。

Wittgenstein 博士は、哲学者として非常に有名であり、たいへん古くからの、そして親密な友情で私と結ばれています。あなたが彼に対してなしうることをすべてに対して、心から感謝したいと存じます。どうして彼がロシアに行きたいのか、をあなたにお伝えすることを、私は彼自身にゆだねなければなりません。彼は、共産党には属していませんが、確信をもって、新しいロシア政府が責任をもっている生活の仕方に強い共感をいただいています。

Wittgenstein 博士が、なるほど戦前も戦後もながいあいだ Cambridge に滞在していましたが、オーストリア国民であることも言及しておきたいと思います。彼はすでに若干の暫定的な助言を与えてもらった Vinogradoff 氏と会見しましたが、私は、Vinogradoff 氏はもうイギリスには滞在しておられない、と思います。

K. 27

Friday

[July 1935]

#### Keynes 様

ここに私は、あなたの紹介状にただ感謝を申しあげ、Maiski との私の会見がうまくいったことを、あなたにおつたえたいと思います。彼はまったく感じがよくて、私が役に立つ情報を手にいれることもできるかもしれない、ロシアの幾人かの人たちの住所を送ってくれることを、最後には約束してくれました。私がロシアに定住する許可をもらうようにやってみることを、たぶんそうなる見込みがある、とは思ってはいないけれども、完全に絶望的だとはどうも考えていないようでした。

敬具

Ludwig

Wittgenstein は、1935年の初秋にロシアを訪れた。彼は、ノルウェーで1936年から1937年の一年間を過ごして、Cambridge に帰ってきたのち、やはりロシアに行く計画をもっていた。Paul Engelman, *Letters from Ludwig Wittgenstein*, p. 58 をみよ。

K. 28

81, East Rd  
Cambridge  
1. 2. 39.

Keynes 様

私は昨晚、M. S. をもって King's College を訪問しましたが、あなたは London に行きなさい、と言われました。それで私は、またそれをかえしてもらいましたし、あなたが金曜日以前には望まれないなら、私は金曜日までそれを手元においておきましょう。私は翻訳を少し通して検討し、それに二日をあてたいのです。おそらく幾らかのひどい間違いを訂正するのに。けれども私には、これをする時間がありません（奇妙に思われるかもしれませんが）。私の翻訳者は、第一巻の約半分ほどやって、その後に彼の父が二・三週間まえに亡くなったアメリカに旅立たなければなりません。それで私は、あなたにドイツ語の原文を手渡すことにします。——その原文があなたに何か役に立つ場合のために。原文や翻訳を見つめることがあなたに役に立つ、と私が信じているかのようではなく、あなたが原文をごらんになるのを望まれているので、あなたはとうぜん原文をお持ちになるのです（Moore はドイツ語の原文をほとんど読んでいますし、それについてあなたに何かをおつたえすることができる、ということはありません）。私がおそれているのは、英語版の一部コピーが一冊だけと訂正されたドイツ語版の一部コピーだけしかないことです。あなたは、その両方のコピーを持たれるでしょう。

こうしためんどうなことをすべて引き受けてくださることに、お礼を申します。

敬具

Ludwig

M. S.—*Investigations* のその当時の版の最初のものの英語訳。

*lost cause*—Moore の引退後、空席になるはずであった哲学教授の職に Wittgenstein は志願していた。Keynes はその講座の選考者のひとりであった。

K. 29

81, East Rd  
Cambridge  
3. 2. 39.

Keynes 様

きのう私が私の本の英語訳を通読しはじめたとき、期待していたよりも悪いものがたくさんあって、それでそれを訂正することがほとんど絶望的であることがわかりました。しかし私はそれでも、この二日間にできるだけ通読して、あなたが英語の M. S. をごらんになるときにおわかりになるように、ほとんど逐語的に訂正しました。私は、このやり方では約20ページ以上はやることができませんでした。あなたが多少ドイツ語をお読みになれるなら、私はドイツ語の原文を読むことをやってみたいのですが。全体のものは、二・三日まえに読んだよりもいまは、もっと茶番劇のようにさえ思われます。

ご多幸を祈ります。

敬具

Ludwig

K. 30

9 I, East Rd  
Cambridge  
8. 2. 39.

**Keynes 様**

あなたのご親切な報告書、ありがとうございました。そのとおりです。翻訳は、まったくみごとなほどひどく悪いものですし、そのうえ翻訳をした人は優秀な人です。ただ彼は、生まれながらの翻訳者でないだけです。口語体の（専門的でない）散文ほど翻訳するのはむづかしいものはありません。

敬具

Ludwig

K. 31

8 I, East Rd  
Cambridge  
11. 2. 39.

**Keynes 様**

電報、ありがとうございました。あなたが引き受けられたすべてのご労苦にお礼を申します。あなたが誤りをなされなかったことを、神様にお願いしています。あなたが間違いをされない、ということを実証するのは、私の問題だということはわかっています。それで、りっぱな教授になるでしょう。  
望むらくは。

もういちど感謝を。

敬具

Ludwig

*telegram*——1939年2月11日に Wittgenstein が教授職に選ばれた時の祝電。